令和５年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　学校番号　５８　大泉学園緑小学校

	課題分析	授業改善策
国語	「書くこと」について、文章を書かせた際、何かを調べて分かった事実なのか、自分の感想なのか、意見なのか区別がついていないことがある。相手や目的を意識した表現や記述の仕方を考えることに課題がある。語彙が少なく、自分の考えを伝えることに苦手意識をもっている児童が多い。自分の考えを話すこと、書き表すことにおいても、難しく感じている様子がある。	・年間を通して語彙を増やしていくために、教科書の言葉の宝箱を参考にして、文章を書く際に、自分の表現したいことを伝えることができる言葉を調べて活用させる。 ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を整理しながら、目的や意図を明確にして簡単に書いたり、詳しく書いたり、事実と感想、意見とを区別したりするなど、書き表し方を工夫する経験を各学年の実態に合わせて段階的に行う。 ・友達と文章を読み合い、感想や意見を伝え合う機会を設定する。また、友達の文章と比較しながら、自分と友達の文章のよいところを見付けさせる。
社会	資料を読み取る視点や方法を十分に理解できていない児童が多い。また、表現する力にも課題があるため、読み取った内容から児童が自ら考え、表現し、互いに伝え合うことができるような手立てを考えていく必要がある。	・教科書や資料集、インターネット等の情報を多用し、グラフや年表の見方、情報の捉え方について確認する場を設けながら調べる活動を増やしていく。 ・自分の考えや予想を立てる時間を十分に取り、児童が主体的に考えたり、伝え合ったりする活動を増やす。 ・学年に応じた表現方法（ノートやタブレット）で表せるような授業計画を立てる。
算数	問題場面を図に表したり、その関係を式に表したりすることを苦手としている児童が多く見られる。また、生活経験が不足していることから量感（単位の関係や変換、仕組みなど）に対する理解に課題がある児童が多い。	・問題場面を図に表したり、その関係を式に表したりする活動を通して、正しく立式し、問題を解決する力を育む。また、自分の考えを書いたり友達に説明したりする活動を増やし、論理的思考力を育む。 ・図や表を使って表したり、実際に教具（具体物）に触れたりすることで、児童の多くの感覚を使って理解しやすい授業を展開する。また、大きすぎるなど実際には準備できない教具などは、デジタルコンテンツを効果的に活用し、量感を養えるよう工夫していく。
理科	生活経験が不足しており、火を使ったことがなかったり、水鉄砲をしたことがなかったりする。また、生き物と触れ合う機会が少ない児童も増えている。そのため、予想や考察の際に、自分の経験を踏まえた考えを記述することに課題がある。また、予想や考察を書く際に、書き方を指導して定着させていく必要がある。	・「導入」の活動時間を十分に確保し、導入の活動で経験したことを自分の知識や技能として落とし込み、その知識や技能をもとに学習を進める。また、経験することが難しい単元では、タブレットを活用して情報を集め、想像の土台をつくる。 ・「予想」「考察」の書き方を指導・掲示し、児童がいつでも確認できるようにする。「予想」「考察」の時間を十分にとり、自分の考えをまとめて、書くことができるようにする。「結果」は、実験班だけではなくタブレットを用いて学級全体で共有して比較をし、「考察」に繋げるようにする。また、友達と意見交流することで考えを深める。意見交流にはタブレットを効果的に活用し、多面的に考えさせる。
生活	身近な人々や社会、自然に対して学習中は意欲的に関わろうとしたり、興味・関心をもって生き物の世話をしようと取り組んだりしている。日頃の生活の中での経験が乏しく、学習したことを自分の生活に生かそうとする意識が低い。学習内容と自分自身の生活とのつながりに気	・学習したことが生活の中でどのように活かされるのかを想起させ、学習と生活のつながりを実感させる。また、生活のあらゆる場面で、学習中の気付きを思い出せるような声掛けをし、その経験を学習の中で取り上げ、次の学習に生かしていく。 ・児童同士の認め合いや定期的な振り返りを、タブレットを活用して意図的に設定し、繰り返していく。学習した内容から自分の生活を振り

	付いたり、関わりを通して自分の生活を豊かにしようとしたりする態度を育む必要がある。	返り、改善しようとする習慣を付ける。
音楽	気付いたことや感じ取ったとと、自分の経験や思いとを結び付けてより深く考え、自分なりの価値を見いだす力に課題がある。また、鍵盤楽器やリコーダー等の楽器の演奏技能に課題のある児童が多い。	・その音楽のよさや面白さに切り込むことのできる発問を精査する。また、児童が友達と意見を交流する場面を設け、自分の考えを広げて深めてまとめていけるようにする。 ・器楽の学習では、ペアやグループでの活動の時間を設けることにより楽器に触れる時間を増やす。 ・ペアやグループ学習ではチェックポイントを明確にして助言し合う活動を行うことで、児童の理解をより深めることや技能の向上につなげる。
図画工作	失敗やうまくいかないことへの不安を感じることから、粘り強く活動に取り組むことが課題である。児童の実態に合わせて造形活動の中で試しながら考えたり、思いついたことを表現したりする造形遊びの要素を取り入れた活動を進めていく必要がある。	・学年に応じて段階的に様々な用具や材料に触れ合う機会を設け、自分で感じたことをもとに発想を広げられるようにする。 ・タブレット機能を有効に活用した振り返りを行い、児童が自分の学習活動を可視化できるようにする。 ・鑑賞の時間では、児童同士の作品の認め合いや良いところを見付け合う機会を増やし、学習活動の意欲向上へつなげる。
家庭	意欲的に取り組んでいる児童が多い。しかし、日常生活での経験が少ないため、生活に関する課題を自ら考えたり、実践意欲を高めたりすることに課題がある。生活経験を補うため、家庭での積極的な手伝いを呼びかけ、家庭と連携した実践の経験を積む必要がある。	・自分の生活や家庭の様子を振り返り、これまで行われてきた実生活の中での工夫と、自分が学習した知識や技能を結び付けることで、今後の生活を自ら工夫していく意欲にしていく。そのために、実習を重視し、繰り返し作業する機会を設け、一人一人が技能を習得できるようにする。 ・製作活動では、作業の順序、作業時間、工夫するところなど、児童一人一人に応じためあてをもたせる。ワークシート作成の際、授業中の活動だけでなく、最後に家庭での実践や家族からの感想なども含めて完結するような構成の工夫をする。
体育	運動量や運動経験に差がある。基本的な動きが苦手な児童が多く見られる。（用具の操作、走る、投げるなど）また、運動が得意、不得意な児童の二極化がみられ、運動が苦手な児童の意欲の低下が見られる。	・体育の時間に運動時間を十分に確保するために 1 単位時間の計画を考え、運動が苦手な児童が意欲的に取り組めるような場の設定やルール、運動課題を設定する。 ・自分の動きが確認できるよう ICT 機器を用いて、確認する時間を作る。 ・感染症対策で運動経験が少なかった部分を下学年の内容を取り入れながら、多様な経験ができるように学習計画を立てていく。
外国語	・語句や表現を知らなかったり、自信が無かったりして、自分の思いや伝えたいことを十分に表現できていない。 ・場面に応じた表現の工夫やリアクションが少ないため、形式的なコミュニケーションになってしまうことが多い。	・自信をもって話すことができるように、ALT と担当教員が会話のデモンストレーションを活動の前に取り入れる。 ・具体的な文章や、それにふさわしいジェスチャーなどを示し、表現のバリエーションを増やしていく。 ・活動の前に状況設定をし、相手意識をもった質問やリアクションができるよう指導する。